

## (早期) 不妊 去勢手術のおすすめ

早期とは、猫では、生殖年齢（発情）前の生後2か月から4か月  
犬では、犬種にもよりますが、生後2か月から6カ月位までをいいます。

当院では、次の利点を考え、できるだけ発情前に、不妊去勢手術をされることを、おすすめします。

- ① 早期手術をすることにより、最初の発情以降に手術をするよりも、各種生殖器官の炎症や、腫瘍の発生率が顕著に低下するので、動物の寿命が長くなります。
- ② 手術による肉体的、精神的ショックが軽い。  
生後3～4か月なら、麻酔から覚めると、遊び回ります。このくらいの時期は遊びたい盛りですから、病院内でもかまって欲しい様子をします。  
生後1年前後になると、様子がわかってきて、退院するまで不安や恐怖の為ずっと鳴き続けたり、ブルブル震えたり、ケージの中で暴れまわったり、下痢、嘔吐する動物もいます。手術後の痛みも強く、傷口の大きさによっては痛みのため術後何日もじっとしている場合もあります。退院してからもしばらくは、食欲不振、下痢、嘔吐をしたり、人間不信に陥ったりと様々です。動物病院が大嫌いになって、通院するたびに、激しいストレスにさらされることとなります。
- ③ 早期手術の場合は、生殖器が未発達のため手術による出血が少ない傾向があります。
- ④ 動物の性格が穏やかになり、しつけがしやすくなります。  
特に雄の動物は、とても甘えん坊になる傾向が強いです。
- ⑤ 本能によるところもありますが、生殖活動に伴う行動を学習していないため、縄張り意識がありません。従って、無駄吠え、マーキング、喧嘩をあまりしないため、外傷、交尾による感染症にもかかりにくくなります。
- ⑥ 発情期に異性を求めて、家出をし、道に迷って、自宅に帰れなくなったり、交通事故にあたりする危険性が減ります。